

忍び寄るカタストロフィ

——その多様性と遍在性

井上 彰

通常、カタストロフィは突然、特定の場所と時間に降りかかってくるものだと受け止められている。しかしカタストロフィには、別の形態、より精確には別の側面がある。それは、実際にカタストロフィが起こった後に見えてくる問題である。すなわちそれは、普段は可視化されておらず、問題の深刻さに事後的に気づく問題であったり、徐々にカタストロフィが迫ってくるがゆえに、事前に対策が打たれることなく、その結果事態がより深刻化するものであったりする。地球温暖化や地球規模で広がる格差、政治の腐敗、パンデミック、精神疾患、人口移動（移民・難民も含む）等が、カタストロフィのそうした別の形態ないし側面の具体例であると言える。

2014年度の国際カンファレンス「忍び寄るカタストロフィ——その多様性と遍在性——」は、そうした多様かつ遍在する慢性化したカタストロフィが正義の問題とどのように関わるのかをテーマに、2015年3月23日から25日にかけて立命館大学・衣笠キャンパスにて開催された。本カンファレンスでは、オックスフォード大学、フランス国立科学研究センター、メリーランド大学、南オーストラリア大学、京都大学、早稲田大学、関西大学等から一線級の研究者を迎え、「国際カンファレンス」と呼ぶにふさわしい内容となった。本特集号は、その成果の一部を収録するものである。Student Sessionsの公募論文4本は、カンファレンスで受けたフィードバックを元に投稿され、厳正なる査読を経て掲載に至った論考である。

本カンファレンス招聘者の各論文について、簡単に紹介しよう。

佐野論文は、腐敗という政治理論において先鋭的に問われてくるカタストロフィのケースをとりあげ、そうした問題を真正面から扱う非理想理論的正義構想がいかなる指針を提出しうるのかについて検討するものとなっている。松元論文は、正戦論という古くからある、しかし今日においても政治理論・倫理学上で活発に議論されている分野でたびたび問われてきた比例性 (proportionality) の観念に焦点を当て、その対象となる戦争の善をめぐる複合的な比較考量がカタストロフィ状況においても欠かせない点について明らかにするものである。後藤論文は、アマルティア・センの「目標としての権利の一貫した体系」に関する構想を援用して、多種多様な個人のための権利が実効的に保障される公共的ルールがいかにして可能か、そのありうべき姿をどのような方法で措定しうるのかを探究するものである。アスレイナー論文は、カタストロフィ的災害が社会の一体性 (cohesion) や政府への信頼 (trust) に与える複雑な影響について、様々な様相をもつ信頼概念をひもときながら、実証的データや具体的ケースを用いながら議論するものとなっている。

デュムシエル論文では、カタストロフィが人びとの期待に影響を与えるという観点から、断絶 (rupture) や一時性 (temporarity) の側面ばかりでなく、端的に普通の生活を送ることがで

きなくなることや、精神的病に苛まれるといった様相をみせることが指摘され、カタストロフィ理解のあるべき多様性が示されている。カステル論文は、カタストロフィがもたらす終末論的思考様式が含意するわれわれの道徳的混乱や不安、恐怖といったものをどのように理解すべきかについて、カール・ヤスパースやハンス・ヨナスらの「終わりの時 (the End of Times)」をめぐる哲学的・倫理的考察をふまえて検討している。ケック論文は、カタストロフィの典型とも言うべきパンデミックの脅威に備えるという点で先鋭的に問われるバイオセキュリティと生物多様性が実は緊張関係にあることを、パンデミックに備えるいくつかの取り組みを詳しく追うエスノグラフィによって解き明かすものとなっている。

以上からもわかるように、各論考とも、それぞれの研究関心・分野・テーマに沿って、「忍び寄るカタストロフィ」というこれまで等閑に付されがちであったカタストロフィの側面に鋭く迫るものとなっている。同様のことは、厳正な査読を経て掲載に至った Student Sessions の奥田論文、長谷川・桐原論文、牛 (Niu) 論文、そして越智論文に関しても言える。ここで各論考について紹介はしないが、それぞれの力のこもった論考ばかりである。読者諸氏には、直接論考に当たってもらえれば幸甚である。

なお本カンファレンスは、立命館大学大学院先端総合学術研究科主催、立命館大学国際言語文化研究所・生存学研究センター共催で開催された。また本特集号は、日本学術振興会・科学研究費「カタストロフィの分配的正義論」(基盤研究 (C) 一般、課題番号:15K02022, 2015年度～2017年度)の研究成果の一部である。